

外来語と英語教育(5)

フォニックス(つづり字と発音のルール)

1982年2月16日

この研究に携わった研究員

森永 誠	石津谷 進	安原 修三
長 勝彦	後関 正明	青木 弘子
備里川 正人	師 恵津子	

目 次

レジュメ	63
1. 序論	63
2. 音と表記の規則性と不規則性について	65
3. 発音記号とフォニックス	66
4. フォニックスのルール	66
5. フォニックスのグレーディング	69
- 英語を初めて学ぶ人を対象として -	
6. 外来語リスト	
- フォニックスのルール別・グレーディング別 -	70
リストA ... 一音節語	70
リストB ... 二音節以上の語	71
付 記	72
参考文献	72

目次は発表時のもので、ページの示されていない項目は、このダイジェスト版では省略されています。

レ ジ ュ メ

英語は、「つづり字と発音」の基本的な部分で規則性が認められる言語である。一見不規則に見える部分にも、それなりのルールが認められる言語である。「つづり字と発音」に関して規則からはずれている語もある。表記は母音字と子音字を持ち、一音節の表記は<母音字><母音字と子音字><母音字、子音字、グライド表記文字>および<消去可能な文字>から構成される。グライド表記文字は母音字を主とし、w, y, l が代行することもある。

子音を表記する1~3文字の子音字の構成には規則性が認められる。母音字は1文字1短音をあらわすことを原則とする。連続した2文字の母音字、および<母音字+グライド表記文字>は、グライド(長音・グライド)をあらわすことをメイジャー・ルールとし、それが1短音をあらわすものは、すくなくともマイナー・ルール、あるいは不規則性と考えられる。母音字1文字がグライド(長音・グライド)をあらわす構造は、<母音字>、<子音字+母音字>、<子音字+母音字+単子音字+e>を1音節とする構造にだけみられる。

1. 上記の考え方にもとづいて、フォニックスのルールを整理して提示する。
2. 英語初学者用に、フォニックスとの関連でのグレイディングを整理して提示する。
3. 英語教育に実際に役立つように、フォニックスのルール別・グレイディング別の外来語リストを整理して提示する。

. 序論

(1) 借用語・外来語について

水は高いところから、低い方へ流れる。ことばも語については同様の現象がみられる。政治・経済・軍事。科学。技術等の分野で優位に立っているくに、地方のことばは、ほかのくに・地方に強い影響を与える。それはまず語の項目で借用語・外来語という形態で流れこむ。このばあい、表記は借用語・外来語の祖語の音をうつす形態と、母語で意識して記述する形態をとる。母語に組み込まれる過程で変化することもある。意味はふつう、借用語の祖語の一部分を当てることになる。その意味がそのまま持続する場合と、意味が転じていくもの等がある。

(2) 日本語の語彙について

日本語の将来について、大野晋(おおの・すすむ)氏は「あと50年たったら、日本語の語彙は、がらっと変わると思います。いまの日本語は漢字が5割、和語4割、片かな一割くらいの割合でできていますが-中略-カタカナ語自体も三割くらいまで広がっていくでしょう。」と今から約10数年ほど前に発表している。

好むと、好むまいとそういう予測が立つらしい。樺島忠夫(かばしま・ただお)氏

は、日本語の将来について、「(1) 基本的な部分の40～50%を、和語と使い慣れた漢語が占める。(2) 残りの大半の部分を外来語が占める。(3) さらに、その残りを漢語と混種語が占める。」と予測している。外来語のうち、70～80%が英語であるという通説から類推すれば、日本語の語彙に大変な変化が進行中であることになる。

(3) 外来語(英語)について、整理した項目

外国語(英語)の初歩の学習において、外来語(英語)の使用は学習者の語彙負担を軽減することができるか、あるいはできないか、という問題に取り組んで、すでに5年目になる。使用頻度が高く、英語の意味別頻度の高い外来語(英語)を発音、表記の面で整理して用いることによって、語彙負担を軽減することができるならば、何をどのように整理することが必要であろうか。「外来語と英語教育 - 2・3・4」では、次に項目を取り上げた。整理は次のようになされている。

ア・外来語(日本語)の発音に関しては、「外来語と英語教育 - 3, 1979年」で取り上げた。日本語の特徴と考えられている「ア・音韻はCV(子音+母音)系であり、語頭・語中・語末にCC(子音連結)はおこらない、イ・語末が(子音)で終わることはない。」というのはどこまで正しいのか。上記のア、イについて、主として東京方言に起こっている母音の無声化がどのような子音環境で見られるか。また、英語の音声上の特徴である強勢を、isosyllabism(等時音節性)を音韻構造に持つといわれる日本語・東京方言に付加したならば、子音環境によってどのような変化が生まれるか。この2点について仮説をたて、調査・整理した。

イ・外来語(英語)の意味に関しては、「外来語と英語教育 - 4, 1980年」で取り上げた。「英語の意味別頻度と、外来語の意味の重なり」についての研究である。外来語の意味がその祖語(英語)の意味項目のうち、意味別頻度の高い項目、あるいは低い項目とどのように重なっているか、調査したものである。関連して、表記および発音は外来語でありながら、意味が転じている語彙(和製英語)にもふれることとなった。

ウ・外来語(英語)の語のレベルでの文法との関連については、「外来語と英語教育 - 2, 1978年」でとりあげた。「借用語は名詞化して日本語化し、外来語(かたかな語)となる。これに日本語の語尾変化を補足して他の品詞化する」項目等がこれにあたる。

エ・外来語(英語)について、本論で整理する項目 - 語の音と表記の関連・フォニックス

英語は、つづり字と音との関連が非常に不規則である言語である。ということがよくいわれる。つづり字と音に規則性がないとは、どのようなことをいうのか。

筆者は、あまりにも不規則性を強調された英語の表記について、規則性を認めるものである。本論ではフォニックスのルールを整理し、日本の初学者が学習しやすいグレイディングをほどこし、初学者に有効な外来語彙リストの一部を準備することとした。

2. 音と表記の規則性と不規則性について

世界にいまあるといわれている3千数百の自然言語のうち、表記法を持つ言語は少ないという。表記法を持つ言語のうち、音と表記に関して、規則性が強い言語と、弱い言語があることは事実であろう。音と文字との関連については、音素とかぶせ音素が国語ではとくに重要な要素となる。かぶせ音素については、日本語の場合卓立（高低アクセント）を、英語の場合ストレス（強勢）を最大の要素と考える。規則性と不規則性を基準として、エスペラントをとりあげ、つづいて日本語と英語とを考えることとする。

(1) 人口語の規則性 - エスペラント

ア．表記はローマ字で、アルファベットを用いる。ただし、英語のアルファベットと比べるとQ, W, X, Yがなく、C, G, H, J, SおよびUがくわえられる。音と表記は規則的である。

イ．強勢は、語の終わりから2番目の母音におかれ、規則的である。

以上のように、かなり単純なルールになっていて、規則性で貫かれている。

(2) 自然言語の規則性と不規則性 - 1. 日本語

表記法を持たなかった日本語に表記法をもたらしたのは漢語であり、漢字であった。漢字のあて字により、やまとことばは表記できるようになった。漢字から「仮りの名」・かなをうみだし、日本語の表記は漢字・ひらがな・かたかなによってなされるようになった。

ア．かな表記（ひらがな・かたかな）は表音文字で、規則性の非常に強い表記法である。

イ．漢字表記は表音文字と表記文字としての機能を持ち、造語力と表現力にとむ能力のある表記法である。同時に、音訓の同時表記は音読みと訓読みの混交により、日本語を万人が同じように「かけない言語」、「よめない言語」としかねないマイナス面もあわせ持つことになっている。漢字の音訓同時表記は、不規則で複雑である。

ウ．卓立（高低アクセント）は、近畿・四国地方の方言を中心とした京都式アクセント、その変形である関東・奥羽・北海道・中国方言の東京式アクセント、仙台および九州の一部にみられる崩壊アクセント等に大別される。表記との関連では、

一般的にいえば、卓立はわかりにくい、と言えよう。

(3) 自然言語の規則性と不規則性 - 2 英語

ア．表記は、ローマ字のアルファベット 26 文字である。音とつづりの不規則性については、バーナード・ショーの「fish は ghoti ともつづれる」に代表されるように有名であるが、疑わしい。音とつづりの規則性がかなり強い言語である、という立場からみると、かなり整理できる言語である。

イ．かぶせ音素については、street-timed-rhythm であり強制の位置を知っていれば、音とつづりの規則性はかなり強い言語であろう。イギリス・アメリカ・カナダ・オーストラリア等いわゆる英語国から、公用語・共通語として英語を採用している国まで、英語は広く用いられている言語であるが、イントネーションはともかく、word stress について規則性が非常に強い。

3 . 発音記号とフォニックス

(1) 発音記号はかなり種々様々な差異がある。本来、音声学の専門学者、あるいは、言語学者少なくとも英米では英語教師のフィールド・ワークのための記号であると言えよう。英語を母音とする国では、発音記号が小学校・中学校・高等学校で教えられることは、まずないときいている。

(2) 日本で通用している International Phonetics System は、一部の学者を除いては米国では通用していない、ときいている。International を目指したのであるが、現実には国際的でないと言えよう。

(3) フォニックスは、つづり字のままに読めるように指導する方法で、英米の小学校で教えている基本的なつづり字のルールである、という。

(4) フォニックスは、自然言語である英語のつづりと音の関連を整理し、発音記号を用いなくて、つづり字のまま規則性の優位を認めて、英語を読めるように、書けるようにする方法であると言える。

(5) フォニックスのうち、その基本的なルールを習得させることは日本人で英語を初めて学習するものに、英音と英字のつづりになじませる適切な方法であろう。

4 . フォニックスのルール

第二部

(1) 母音字と子音字

ア．母音字には、a,e,i,o,u および < 子音字 + y > の y がある。母音字は、子音環境および強勢によって、短音・グライド・弱母音で発音される。

- 省略 -

イ . 文字と同じ規則的な発音を表す子音字には b, d, f, (h), j, k, l, m, n, p, r, t, v, (w), y, z がある。

- 省略 -

ウ . 一音節内の重子音字は、文字と同じ音を表す。

- 省略 -

エ . c, g にはルールがあり、後につづく母音によって一定の二種類の音となる。

(6)を参照

オ . q は単独ではアルファベットの q 以外、子音字としての機能はない。qu [kw] で規則的なルールとなる。q は語頭で [kw], 語末で que [k] となる。

- 省略 -

カ . x は語頭と語末の発音が異なる。語頭では [z], 語末では [ks] となる。語中では [ks] または [gz] となる。

- 省略 -

キ . y は母音字、または子音字としてはたらく。

・母音字の前の y は子音字となる。 ・子音字の後の y は母音字となる。

ク . グライド表記用文字 (仮称) としての w, y, l 等は、母音字の代替文字として考える。r はこれと異種の子音字の扱いとする。

- 省略 -

(2) < 子音字 + 母音字 + 子音字 > の構造

0 ~ 3 文字 1 文字 r をのぞく 1 ~ 3 文字

母音字を 1 文字とするこの構造では、母音字は短音となる。前の子音字は 0 ~ 3 文字、後の子音字は 1 から 3 文字で、r はのぞく。この構造の規則性は非常に強く、例外が少ない。

- 省略 -

(3) < 子音字 + 母音字 + 単子音字 + e > - 1 の構造

0 ~ 3 文字 1 文字 r をのぞく 1 子音字

この構造では、母音字はアルファベットの a, e, i, o, u と同じ音になる。ただし u は ch, j, l, r の後では [u:] となる。s のあとでは [u:] 米音、[ju:] 英音となる。また母音字 y は i と同じく [ai] となる。

- 省略 -

(4) < 子音字 + 母音字 > で終わる構造

0 ~ 3 文字 1 ~ 2 文字

この構造では、母音字はグライドとなる。

- 省略 -

(5) 規則的に発音される二重子音字

ア . 1音を表す二重子音字は次の通りである。

ch[t], ck[k], dg[d], ph[f], sh[], tch[t]

- 単語省略 -

イ . 2種類の音を表す二重子音字

・ thは無声音と有声音とがある。無声音[]が有声音[θ]より多いので、無声音をメイジャー・ルールとする。ただし、有声音には基礎語が多くみられる。

・ quは語頭、語中で[kw]、語末はqueとなつて[k]となる。

・ whはa,e,iの前では[hw/w]、oの前では[h]となる。

・ ngは語末で[ŋ]、語中では[ŋg]か[g]となり、法則性が複雑になる。

(6) c.gのルール

ア . cは母音字 e,i,yの前では [s]、それ以外では[k]と発音される。

イ . gは母音字 e,i,yの前では [d]、それ以外では[g]と発音される。ただし、cのルールが一定しているのに反し、gはe,i,yのまえで[d]となる規則性が崩れて[g]となる例が多く、問題を含んでいる。

(7) 規則的に発音される二重母音字

規則的に発音される二重母音字は、2文字(または3文字)からなり、音はグライド(長音を含む)を基本的なルールとする。二重母音字で短音を表すものは、マイナールール、または規則外と考える。

メイジャー・ルール

マイナー・ルールおよび規則外

ア . ea, ee は [i:] と発音される。

ea=[e] はマイナールール

イ . ai, ay は [ei] と発音される。

ai, ay=[e] は規則外

ウ . ei, ey は [ei] と発音される。

エ . oi, oy は [oi] と発音される。

オ . eu, ew は [ju] と発音され、ch, j, l,

r, (s) の後では [ju:] と発音される。

カ . ou, ow は [au] と発音される。

ou=[u:], ou=[ou] は規則外

ou=[], ow=[ou] はマイナールール

キ . oa は [ou] と発音される。

oa=[:] は規則外

ク . oo は [u:] と発音される。

oo=[u] はマイナールール

ケ . au, aw は [u:] と発音される。

コ . 1音節の「al + 子音字 (l または k)」の al は [:] と発音される。

(8) <母音字 + r>、<母音字 + re>、<二重母音字 + r> は規則的に発音される。

- 省略 -

(9) 弱音節と弱母音について

弱音節にある母音字と<母音字+r>は一般的にいえば[ʃ@]へ指向する傾向が強い。

- 省略 -

(10) 二重子音字の前の母音字に強勢があれば、母音字は短音となる。

- 省略 -

第二部

第二部は、細部に渡る項目であるが、その中から2項目にしぼり、その1部を補足することとする。なお、項目だては、第一部につづけて(11),(12)とし、それぞれ概略を記すこととする。

(11) 発音されない母音字について

ア．前の母音字に強勢がある場合、その後の<子音字+e>のeは発音されない。

イ．前の音節に強勢がある場合、後の弱音節の母音字が脱落する子音環境がある。

(12) 発音されない子音字について

この項目の数はかなりあるが、ここでは語頭・語末の少数項目にしぼることとする。

ア．語頭のknのk, psのp, wrのw等は発音されない。

イ．語末のmbのb, mnのn等は発音されない。

5. フォニックスのグレイディング - - 英語を初めて学ぶ人を対象として

英語を初めて学ぶ人たち、および中学生を対象として易から難へのグレイディングを5段階に分けて、設定した。5段階のグレイディングの基準はそれぞれにしめした。初学者対象としては、グレード1および2を教材として準備し、そこから始めるのが妥当であろう。

グレード1 1音節語。母音字のつづりと発音に規則性がある語で、子音字は文字と同じく規則的な発音を表す語。

例 pen, hat, tape

グレード2 1音節語。母音字、二重母音字のつづりと発音に規則性がある語。子音字は文字と発音が違う文字、二重子音字、子音連結を構成する文字を含み子音字にもつづり字と発音に規則性がある語。

例 cage, drink, smash

グレード3 2音節以上の語。母音字、子音字で、つづりと発音に規則性がある語。

例 sandwich, summer, winter

グレード4 1音節語。つづりと発音に不規則性がある語。

例 girl, one, two

グレード5 2音節以上の語。つづりと発音に不規則性がある語。

例 English, women

6. 外国語リスト フォニックスのルール別・グレーディング別

ここでは、項目のみを記載します。詳細については、「外来語と英語教育(5)」を参照して下さい。

A 一音節語リスト

このリストでは、「フォニックスのルール」の(1)は A-1. のように対応させることとする。

A-1. 母音字と子音字 - リストなし

A-2. <子音字 + 母音字 + 子音字> の構造

0 ~ 3文字 1文字 rをのぞく1 ~ 3文字

A-3. <子音字 + 母音字 + 単子音字 + e> の構造

0 ~ 3文字 1文字 rをのぞく1文字

A-4. <子音字 + 母音> で終わる構造

0 ~ 3文字 1 ~ 2文字

(1) <子音字 + 単母音字>

(2) <子音字 + 母音字 + e> で終わる構造

A-5. 規則的に発音される二重子音字

(1) 一音を表す二重子音字

ア . ch [tʃ] . . . 語頭・語中・語末

イ . ck [k] . . . 語中・語末

ウ . dg [dʒ] . . . 語中・語末

エ . ph [f], fと同じ。一音節語は少ない。

オ . sh [ʃ]

カ . tch [tʃ] . . . 語中・語末

(2) 2種類の音を表す二重子音字

A-6. c, g のルール

(1) c [k] . . . e, i, y 以外の前

(2) c [s] . . . e, c, y の前

(3) g [g] . . . e, i, y 以外の前

(4) g [dʒ] . . . e, i, y の前 . . . この項は例外が多い。

A-7. 規則的に発音される二重母音字

(1) ea, ee は [i:] と発音される。

- (2) ai, ay は [e i] と発音される。
- (3) oi, oy は [ɔ i] と発音される。
- (4) eu, ew は、前の子音字の影響を受けて [j u:] または [u:] と発音する。
- (5) ou, ow は [a u] と発音される。
- (6) oa は [o u] と発音される。
- (7) oo は [u:] < 子音字 + oo + k > の oo は [u] と発音される。
- (8) au, aw は [:] と発音される。

A-9. < 母音字 + r > , < 母音字 + re > 、 < 二重母音字 + r > は規則的に発音される。

- (1) < 母音字 + r > は規則的に発音される。

ア . er, ir, ur は [ɛ ʁ] と発音される。

イ . or は [ɔ :] と発音され、w, wh のあとについて [:] と発音される。

ウ . ar は [ɑ :] と発音され、qu, w, wh のあとについて [:] と発音される。

- (2) < 母音字 + re > のうち、are, ire, ore, ure, yre は規則的に発音される。

ere には問題がある。

ア . are [° ɛ]

イ . ire [ɔ i ɛ]

ウ . ore [ɔ :] ore は or と同じ音で発音される。

エ . ure [j u ɛ]

オ . yre [a i ɛ] ・ ・ 語数が非常に少ない。事実上、とりあげる必要はなさそうである。

カ . ere [i ɛ] ・ ・ 語数が非常に少なく、むしろ例外が多い。

- (3) < 二重母音 + r > は規則的に発音される。

ア . air [° ɛ]

イ . eer [i ɛ]

ウ . oar [ɔ :]

エ . ear [i ɛ]

オ . oor [u ɛ]

カ . our [a u ɛ]

キ . ower [a u ɛ] ・ ・ 2 音節語 (ow · er)

B 二音節 (以上の) 語のリスト

B-1 弱音節と弱母音について

- (1) 弱音節にある a, e, i, o, u, y および ei, ey

ア . a は [ɛ] または [i] と発音される。

イ . e は[ɛ]または[i]と発音される。

ウ . i は[ɪ]または[i]と発音される。

エ . o は[ɔ]と発音される。

オ . u は[ʊ],[u],[ju]と発音される。

カ . y は[i]と発音される。

キ . ey, ie は[i]と発音される。

B-2 弱音節にある ar, er, ir, or, ur, yr は[ɚ]と発音される。

B-2 二重子音字の前の母音字に強勢があれば、母音字は短音となる。

B-3 発音されない母音字について

さ (1) 前の母音字に強勢がある場合、その後の<子音字 + e>の e は発音されない。

(2) 前の音節に強勢がある場合、後の弱音節の母音字の母音が脱落する構造がある。

B-4 発音されない子音字について

(1) 語頭の発音されない子音字について

(2) 語末の発音されない子音字

付 記

今年度の研究は語が内包する品詞に関する研究にほとんどの時間を使ってしまったが、まとめる段階にまで到達できなかった。そのために「外来語と英語教育」の関連で、いそいでフォニックスをまとめることになった。

参考文献

- * 1. 竹林 滋「英語のフォニックスー綴り字と発音のルール」ジャパンタイムズ昭和56年
- * 2. 長谷川 潔編者「入門期の英語教育 - 発音とつづりの同時指導」日本ブリタニカ株式会社 1981年
- * 3. 大野 晋「七五調の周辺(座談会)」論集「日本文化3 - 日本文化の表情」講談社現代新書
- * 4. 樺島忠夫「日本語はどう変わるか - 語彙と文字」岩波新書
- * 5. 梅棹忠夫「現代日本文学の問題点」論集「日本文化2 - 日本文化と世界」講談社新書
- * 6. 「外来語と英語教育(1)」東京都中学校英語教育研究会研究部 1978年
- * 7. 「外来語と英語教育(2)」 同 上 1979年
- * 8. 「外来語と英語教育(3)」 同 上 1980年
- * 9. 「外来語と英語教育(4)」 同 上 1981年